

# 環境レポート2020



日本無線硝子株式会社 代表取締役社長 依田 正樹

2019年4月～2020年3月（令和元年度活動）



弊社構内



ニュートリノ検出器

## コンテンツ

- 当社の環境活動
- 体制図
- 環境中期目標
- 温暖化対策
- 環境パフォーマンス
- 令和元年度の環境目標・実績
- 令和元年度の環境活動

## 当社の環境活動

日本無線硝子は「公平で誠実な事業活動を通じてお客様によりこばれる価値を提供し、豊かな社会の実現に貢献する」を経営理念に掲げ、適切な資源・エネルギーを選択し、その使用量を適切に管理し、お客様に最大の価値をもたらす製品を提供することにより、持続可能な社会の構築に貢献します。

当社のISO14001の取組みは2002年の導入から今年で19年目になりますが、導入当初から企業としての本来業務を通じた環境保護や環境配慮に努めてまいりました。毎年トップダウンで環境目標を定めて、その目標達成のため全社一丸となって環境活動に取り組んでいます。また毎月開催される環境委員会で活動の進捗状況をフォローし、PDCAを回しながら継続的改善に取り組んでいます。

埼玉県「ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050（地球温暖化対策実装計画）」に対応し、「目標設定型排出量取引制度」を規準として、二酸化炭素排出量を基準年度比15%削減することを目標に取り組んでいます。

当社の事業の特徴は、ガラス職人の高度な技能から生まれる質の高い製品の成型・加工にあります。これらの製品は、イカ釣り集魚灯などの特殊放電灯やX線管・イメージ管など医療用機器、さらには宇宙の謎を解き明かすカミオカンデの光電子増倍管まで、多岐に渡り社会に貢献しています。

これからも、限りある資源やエネルギーをいかに有効に活用するか、職人技能と生産設備との共存を目指し、日夜努力して参ります。

ここに「環境レポート2020」をまとめました。私たちの環境への取り組みとその現状についてご一読いただき、ご意見をいただければ幸いです。

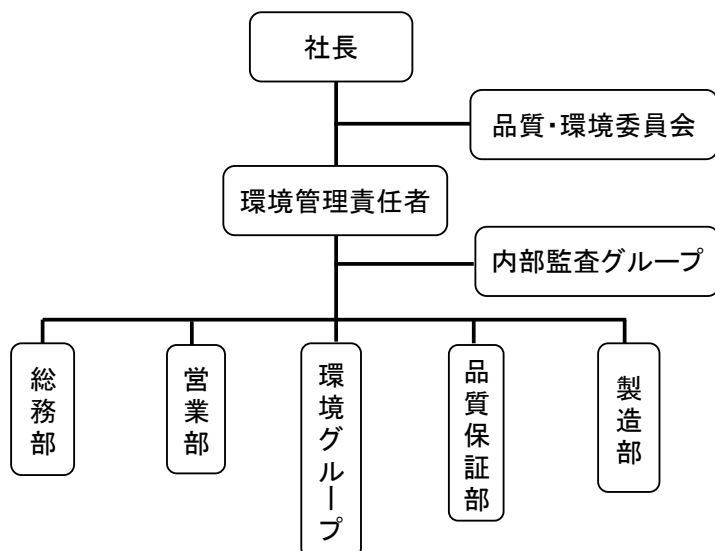
2020年12月

## 環境方針 基本理念

私たち日本無線硝子株式会社は、ガラス製品づくりにともなって発生する環境への負荷を可能な限り低減し、持続可能な社会の構築に貢献します。ものを活かし、人を活かすために、考え続ける集団を目指します。

※環境方針の詳細は、弊社のホームページをごらんください。（[www.jrg.co.jp](http://www.jrg.co.jp)）

## □ 環境マネジメント体制図



(注記) 当社は第2種エネルギー管理指定工場です。  
エネルギー管理士、公害防止管理者、その他の法定管理者が選任され、活動しています。

## □ 環境中期目標

### 1. 地球温暖化対策を強化し、環境にやさしい事業活動を目指す

平成27年度～令和元年度のCO<sub>2</sub>排出量の平均値 基準値比15%削減  
(県条例は13%削減)

基準値：5,542 t-CO<sub>2</sub>\* (平成17年度～19年度平均値)

\*県の電気の換算係数変更が基準数値に反映されております。

\*これは、埼玉県目標設定型排出量取引制度に対応したものです。

### 2. 環境負荷の低減

産業廃棄物のリサイクル率 96%以上

上乗せ目標		基準値	埼玉県条例：第2計画期間				
			平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	目標量	5,542	4,711	4,711	4,711	4,711	4,711
	削減率		15%	15%	15%	15%	15%
	実績		4,654 (16%減)	5,388 (2.8%減)	5,276 (4.8%減)	5,270 (4.9%減)	5,272 (4.9%減)

## □ 温暖化対策（中期計画）

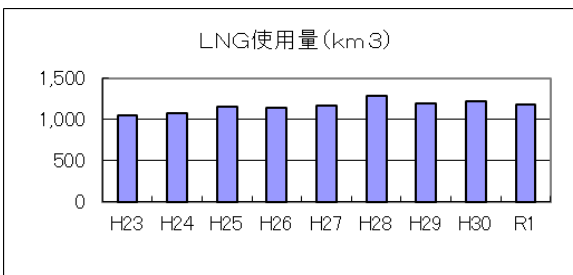
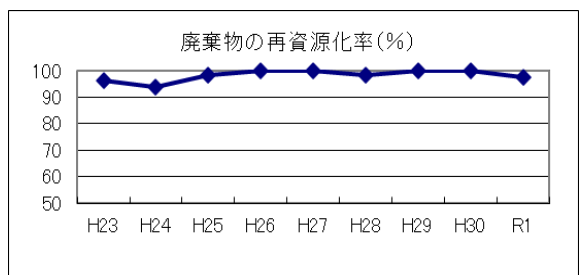
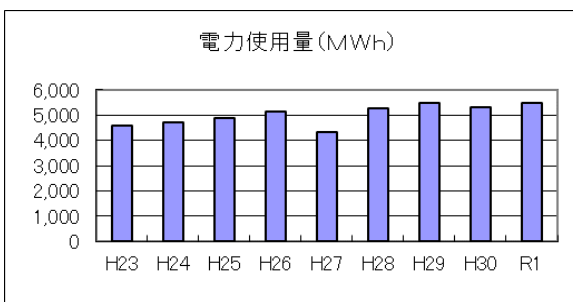
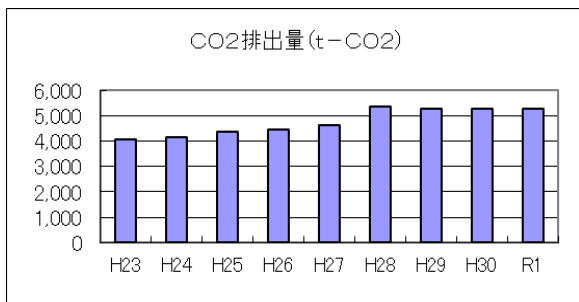
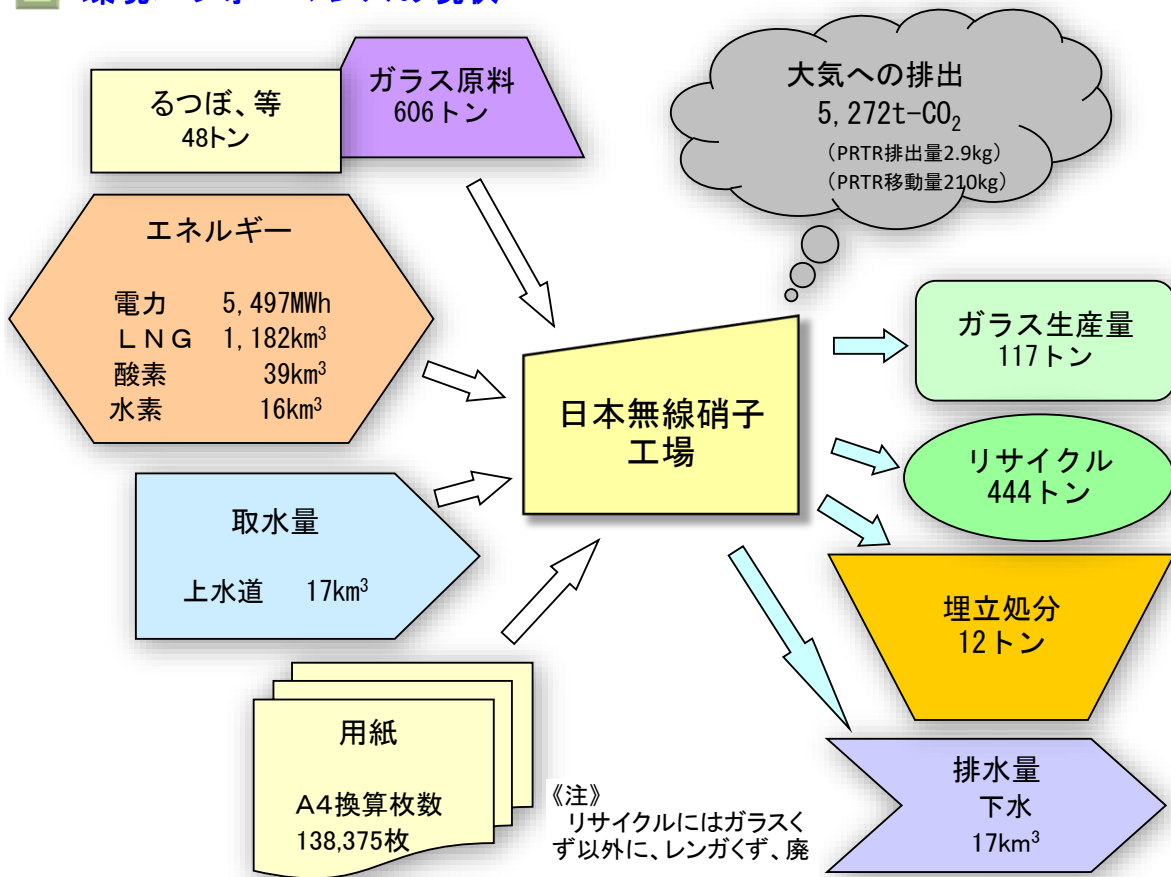
### 1. 電力使用量削減の取り組み

- 電気炉の定期的な炉修
- 電力設備の省エネ設備への更新
- 運用改善による使用電力削減

### 2. LNG使用量削減の取り組み

- 小型炉の断熱性改善による燃費削減
- 歩留改善によるLNG使用量の削減
- 省エネ燃焼技術の研究

環境パフォーマンスの現状



■ 下水排水水質分析結果

定期的に採水し分析を行い法規制値を満足しているか確認しています。4項目全てにおいて法規制値を満たしております。

	法規制値	測定値
BOD (mg/l)	600	60.4
SS (mg/l)	600	28.5
鉛化合物 (mg/l)	0.1	0.01未満
砒素化合物 (mg/l)	0.1	0.01

## 令和元年度の環境目標とその実績

### 1. 地球温暖化対策の強化

目標：CO<sub>2</sub>排出量を、平成17～19年度平均値を基準とし、15%削減  
(県条例は13%削減)

実績：基準値 5,542 t に対し、令和元年度 5,272 t 4.9%削減

★目標を大幅に下回りました。

LNGは前年を下回りましたが電力使用量が前年を上回りました。

電力はコンプレッサーの使用台数の適正化、電気式アニーラの運用改善等の省エネに取り組ましました。しかし電気式ガラス溶融炉の耐熱煉瓦の経年劣化による燃費悪化により、電力全体としては排出量が前年よりも増加しました。

LNGはガス式小型炉を断熱性の高い炉へ更新したことによりガス使用量を削減しました。また外的要因ですが、硝子製品（大型バルブ）の生産（販売）減によってガス式アニーラの稼働が減少しガス使用量が減りました。これらの要因により排出量は前年を下回りました。

### 2. 環境負荷の低減（環境保全の継続的取り組み）

目標：産業廃棄物のリサイクル率 96%以上

実績：97.5%

★目標を達成しました。

今後も環境負荷の低減のため、環境保全の継続的な改善活動に取り組んで参ります。

## 令和元年度の環境活動

### 1. 作業及び工程見直しによるエネルギー効率向上を目指す

当社のCO<sub>2</sub>排出量の99%は電力とLNGが占めており、それぞれほぼ半々の割合です。従って電気炉と坩堝のエネルギー管理が重要と考え、管理手法の研究に継続して取り組んでおります。

### 2. 環境整備

環境法に基づいた対応を行っており、設備の改善・点検強化等の施策を図り、法順守を強化してきました。また、従来お金を支払い処理をしていた廃棄物を見直し、一部は有価売却することで費用を抑える努力を行っています。

### 3. 生物多様性への対応

- 平成27年3月からNPO主催の近隣の新河岸川清掃美化活動に参加しております。また、社内にガラスバルブを流用したビオトープを設置しております。



### 4. 社会貢献

- エコキャップ運動に継続して取り組んでおります。令和元年度は、約18,960個回収し、ポリオワクチン47名分相当となりました。



日本無線硝子株式会社  
〒356-0011  
埼玉県ふじみ野市福岡  
2-1-8  
(TEL:049-264-4413)

発行:環境グループ